

◇5/18(日) アースデイちば ~ グリーンス千葉も出展予定 ~
10:30~16:00 場所: 稲毛海浜公園 芝生広場 入場無料、雨天決行/フリーマーケット同時開催
当日のご参加、アイデアをお待ちしています! ayaringooco_0416@yahoo.co.jp (真木)

◇ 7/4(金) 映画「標的の村」ーアメリカ軍・普天間基地が閉鎖された日ー
① 10:30~ ② 14:30~ ③ 18:30~ (開場は各30分前/上映91分)
場所: 松戸市民劇場 松戸市本町11-6 チケット: 一般 1000円 学生 500円 高校生以下 無料
申込み: 「標的の村」を松戸で観る会 090-3248-3433(杉見) m04_kanki_b1k_1abs@yahoo.co.jp (神吉)

◇ 8/8(金)~9(土) 自治体議員政策情報センター「虹とみどり」全国政策研究会 in 千葉
8日 12:00~ 受付 12:40~開始 13:00~ 講演・シンポジウム
①「新たな地域づくりと市民合意」(熊谷俊人さん(千葉市長)、稲村和美さん(船橋市長)、福嶋浩彦さん(中央学院大))
②「放射能ホットスポットにおける住民自治」(大石光伸さん(常総生協)、木本さゆりさん(放射能から子どもを守る関東ネット))
16:45~ 分科会 (公共施設再生/放射能汚染/教育委員会制度) 18:45~交流会 (別途3000円)

9日 9:30~ 分科会 (集合住宅の再生と地域の福祉/子育て支援/議会基本条例)
13:00~ オプショナルツアー ①白樺源の足跡と手賀沼船上ウォッシング ②指定廃棄物の一時保管場所見学
場所: 中央学院大学 我孫子市久家451 04-7183-6501
参加費(2日間): 市民 1000円 議員 5000円 議員外 1万円 (オプショナルツアーは各2000円)
申込み: 086-244-7723 h-mitsuy@mx1.tvt.ne.jp (センター事務局)、090-4606-9634 (吉野)

◇ 8/16(土)~17(日) グリーンス千葉合宿 ~参加者募集中!
16日 12:00館山集合 ~映画「ひろしま」鑑賞とワークショップ~夕食と交流会、宿泊(鴨川自然王国)
17日 ワークショップ【脱経済成長社会】(講師:白川真澄さん)~昼食~太陽光発電見学
申込み・お問合わせ: masa-fly@sirius.ocn.ne.jp 04-7098-0350 (田中)

Viva Greens
グリーンズ千葉便り 第5号
ー地球規模で考え、活動は足元からー
Contents
* 講座「脱経済成長を福祉の立場で考える」(3/1) 報告
* 3・11から3年…放射能に汚染された「異常」さを忘れない
* 普通のママから、一歩ずつ
~3・11後に「子どもと一歩の会」を立ち上げた松本みのりさんに聞く~
* 地産地消のエコハウス ~我が家のヒミツを聞いてください~
* イベント情報 ほか

グリーンズ千葉は「緑の党 グリーンスジャパン」との連携組織です。
ともに、グローバル・グリーンズ憲章の6つの理念
1. エコロジカルな知恵 2. 社会的公正・正義 3. 参加民主主義
4. 非暴力・平和 5. 持続可能性 6. 多様性の尊重 に基づき、
「緑の社会ビジョン」実現をめざします。
271-0092 松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel/Fax 047-360-6064
HP http://greens-party-chiba.jimdo.com/
入会・カンパ募集中!!
年会費: 会員/3,000円 サポーター/1,000円 (郵便口座 00120-1-687008)

グリーンズ千葉 理論・政策チーム企画 第1回講座
「脱経済成長を福祉の立場で考える」報告(3/1、船橋勤労市民センター)

★脱成長時代の福祉とは?★
今回の第1回講座では、ソーシヤルワーカーで文筆家、アーティストでもある真魚長明さんに来て頂きました。
「福祉と市民活動は隣接領域ですが、大きな違いがあります。歩いて行ける範囲で活動して、大きな違いがある人たちは「助けに行っている」として、肩を貸して家まで送り届ける。市民活動の人たちは「転んだ原因は何か、転ばないシステムや転んでも起き上がれるような制度も提案する」。福祉マインドでは、社会の仕組みを変えられないんです。
市民活動の経験があった真魚さんは、福祉を知るためにホームヘルパー資格を取り、昔はドヤ街だった山谷の介護施設で働いたそうです。介護保険と生活保護で生活が成り立っている入居者は、ただ集まってじっとテレビを見ているだけ。そこは利用者のための施設ではありませんでした。
障害者制度も、必ずしも当事者のためになっていません。例えば、視覚障害者は本人の意志で「移動支援」を求めますが、知的・精神障害者の場合は、必ずしも本人が移動支援を求めているわけでもありません。こうした障害当事者の声は横塚晃一さん(個性麻痺)の「母よ! 殺すな」という著作に見ることが出来ます。

脱経済成長社会でも、福祉を国に任せることはできません。いわゆる市場化ではない「新しい公共」の発想で「共同」または「共同労働」のための制度を創る。
今、細分化されて少数派に見えますが、集まれば99%にもなる経済(生活)弱者たちの福祉・労働・市民活動についての戦いは始まったばかりです。今は負けてばかりですが、市民活動や福祉に関わる人々が、まずは現行の法律や制度を良く知って上手く活用することが必要です。そして変えていくべきものに対しては、署名や請願活動といった局所戦・ゲリラ戦で勝っていくと、署名や請願活動として優し社会をめざす脱経済成長社会を、そこから始めたいと思います。(武笠紀子)

3.11から3年…放射能に汚染された「異常」さを忘れない!

国民より大切な「何か」を死守する国だとわかったこの3年
福島原発事故から3年経ちました。事故の1年後、全国議員が賛成して成立した「原発事故子ども被災者支援法」。人権を重視した法の理念に、私は希望を託しました。しかし、市民が関係省庁との交渉で働きかけても、全国の多くの自治体から意見が寄せられても、法律の理念とは正反対のひどい内容の基本方針があつという間に閣議決定されました。政府は、公衆の被ばく限度1ミリシーベルトを無視、避難基準を年間20ミリシーベルトに緩和「年間100ミリシーベルト以下の低線量被ばくでは安全、肥満や喫煙の害の方が心配」と取り合おうとしません。低線量被ばくの影響は未だ解明されてはいないのです。「原発事故由来の放射線は本来浴びさせられてはならないもの」であることを決して忘れないでください。

3年を区切り「放射能汚染はなかったことにする」動きが加速
今年2月、復興庁が「帰還に向けた放射線リスクコミュニケーションに関する施策パッケージ」を発表しました。原発事故による避難区域の住民が「依然として放射線による健康影響等に対する不安を抱えている」として、避難解除後の早期帰還をねらい国が積極的に不安解消策に乗り出したのです。その内容は、地域の世話役的存在だった何人かを講師に育成し、少人数で講師を囲み車中で話す場を設けるなど具体的。「放射能は心配ないよ」と優しく説得するのですね。自分や家族の健康や将来を不安がる人々を馬鹿にしたような計画が許されています。
昨年5月、国連人権理事会のアナド・グローバリー氏は、「日本政府は低線量被ばくの影響を過小評価し、住民たちの健康を深刻なリスクにさらしている」と指摘、「心身の健康を享受する権利を守る」視点で政策を作るべきだと警告しました。しかし、政府はこの警告を今も無視し続けているのです。
いろんな角度から声を上げ続けよう!
原爆体験を描いた映画「ひろしま」(関川秀雄監督、1953年制作)が今、各地で上映され話題になっています。3月6日のグリーンズカフェ in 鴨川では「ひろしま原爆とふくしま原発」というテーマで、この映画の再上映を企画した映画プロデューサー小林一平さんをお招きしました。小林さんは「核の問題について考えるきっかけにしたい」と、この映画を今、日本で世界で上映することの意義を熱く語り、参加者も想いを語り合う場となりました。この映画に寄せて、井戸川前双葉町長は、「広島では武器としての核。私たちが原発事故で受けたのも同じ核。晩発性、遅効性の化学兵器であり非常に重い犯罪だ。」と強く訴えます。「ひろしま」を自分の地域で上映して、地域の人たちに問いかけるのも1つの方法。「すべての命が経済よりも優先される社会」を創るため、時間がかかっても仲間と元氣を与えあい共に声を上げ続けていきます。人も自然もすばらしいこの国を、大切にしたい。あなたなら、どんな方法で未来を守りますか? (磯野よう子)



松本みのりさん
広島生まれ、38歳。同じ広島出身の夫と長女・ひなたちゃん(5歳)、長男・大知くん(2歳)に加え、8月にもう1人家族が増える予定。この3月、5年住んだ千葉から広島にUターン。取材の依頼に「最初は、私にインタビューなんて!とびっくりしたけれど、ごくごく普通のママこそ、自分の声を出したり、何かできることを見つけていくのが大事だと思って会を続けてきたので、そんな話が伝えられたらいいな」と、引受けてくださった。
連絡先: kodomotoipponokai@yahoo.co.jp

「子どもと一歩の会」
福島の事故をきっかけに生まれたママたちのグループ。映画「フタバ」から遠く離れたこの上映「原発事故子ども被災者支援法」を機能させるための請願、100万人の母プロジェクトへの参加など、無理なく楽しく活動を続けています。
「100年後の子供たちも笑顔でいられる社会を作りた」と、そのために今できることを伝え合い、一歩ずつ進んでいこう!
「げんばつ」を語る会は、脱被ばく、自然エネルギー、憲法、地域通貨などをテーマに月1回開催。取材に訪れた日(2/25)の午前中はちょうどその13回目、広瀬理夫弁護士を迎えた、秘密保護法の勉強会でした。
HP: http://kodomotoipponokai.jimdo.com
Facebook: 「子どもと一歩の会」

普通のママから、一歩ずつ
3・11後に「子どもと一歩の会」を立ち上げた松本みのりさんに聞く
ちよつとこのころ、たまたま出会った記録物「クマ」ともひとと「私」も、私を動かしてくれたきっかけのひとでした。何か問題に気づいた時に、誰かが解決してくれるのを待つのではない、自分から動き始めることが大事だと気づいたんです。原発だ、これだけの事故が起こったのだからやめて当然だと思いつく、そうはならなかった。それなら、自分から動き始めよう。
それから12月、秘密保護法の法案採決直前に決まった公聴会を傍聴したいと国会関係者をあつめたのですが、たらい回しにされたあげく、傍聴券は特定の議員がすべて配り終えたことと判明。そのことを報道で書いたら、やはりそれを見た東京新聞の記者さんから連絡がありました。その夜、国会前の反対集会に参加した夫も取り上げられることになり、茂原の夫婦、廃案訴えと翌日の千葉版に載ったんです。茂原の市役所で、回覧されたそうです。(笑)

拾いあげられた「普通のママ」の声
昨年、終戦の日に行われた「日本の平和をどう守るか」というNHKの市民討論に参加させてもらいました。普通のママとして「一歩の会」を知った局の方が声をかけてください。20代から80代の市民15人ほどが、護憲派と改憲派半々で集められ、約3時間議論を尽くしました。私は「今再び戦争が起きる国に向かっているのだから被爆者の声を聞いて育った自分もそれを止めるために全力で動きたい」と話したんです。あるタンカーの船長さんからは、船体に非武装の目印となる日の丸をつけていたために、湾岸戦争で戦禍を免れたと聞きました。日本はそうやって、9条に守られてきたんだよ、と。かつて少年兵に志願したおじいさんが「子どもが兵隊として出ていくなんてことは、もうしやないけな」と、切々と話していたのも心に残ります。こうした体験を伝えていかないと、ますます「武力がなくてどうする」と言われ、「愛国心」を培うよう教育されていってしまうのではないかと不安になります。

「一歩の会」から、広げていく輪
署名の他には、衆院選の前に地元の議員さん原発の対社会を一括に作りましよう」という原案を幼稚園に貼らせてもらいました。すると「前に東電に勧めたんだ」とか「事故直後は沖繩へ避難していた」とか、何人かが声をかけてくれた。こく個人が活動しやないか」という声もあつたようですが、当時の園長先生は子どもたちにとって大事なことだからと認めてくれました。
そのポスター掲示を機に、真紀ちゃんも2人で子どもと一歩の会を名乗り始め、その後、活動を仲間を増やそうとげんばつを語るう会」を始めました。当初、「原発ゼロをめざす会」としたのですが、それだと公民館にチラシを貼らせてもらうのが難しかった。行ける範囲でチラシを配つて人が集まら、ぼんぼつという名前で活動になりました。スタートは原発でしたが、子どもたちの未来のために、憲法のことなどもテーマにするようにしました。
全部の人が同じ思いを持つことはできなくて、少しずつ、各地の小さな動きとつながって輪を広げていくことが大事だなと考えています。成田市や千葉市からも参加してくれる人が出てきたので、これからも一緒にやっていたら嬉しいですよ。

住の土地は変わっても、発信を続けていく
子どもたちには、「お母ちゃんも、もう二度と戦争をしないために勉強会をやっているんだよ」と原発って、こういうものなんだよ」という話があります。するとげんばつがかるうかい、げんばつってね「なんて手紙に書いてくれたことありま、離れてしまふことはとても残念だけれども、広島という地から声を上げていくことも大事だと思つたんです。あれだけ放射能のことを言ってきたのに、どうして福島事故に対して大きな動きが出てこないか。遠い分だけよそ者になれないか心配です。
広島では庄原という山の近くに住むので、自分たちで食べるものを作つて、自然に寄り添う自給自足の暮らしを送りたい。最初は市営住宅を借りて、家を探し始める予定です。(インタビュー/磯野よう子 構成/真木彩子)

地産地消のエコハウス ~我が家のヒミツを聞いてください~

3年前の3・11以降、以前にも増して自然環境やエネルギー、地産地消について考えた私たち家族はただ今、山武市に自分達なりにこだわったお家を建築中です。そんな我が家のヒミツをここに紹介させて頂きます。
まず、屋根を大きく、庇を付けた腰屋根から室内に空気の流れを作り、建築材として丈夫な地元山武杉材を使用し、極力金物を使わない伝統的な家造りで、クーラーなしでも快適な暮らしを目指しています。
省エネに加えて創エネ面では、南向きに設計した屋根に4.9kwのソーラーパネルを載せ、出来るだけおひさまエネルギーで家事や充電などして生活していきたいと思っています。

と同じシステムで、初めの視察投資を皆様にご協力頂き、将来発電&売電した分、お借した金額に利息を付けてお返ししていくというものです。ご自分でもソーラー発電したいけど色々な事情で出来ないという方、私たちの想いに共感頂ける方、是非ぜひご連絡ください。(中村 真紀)

~参加者・協力者を大募集!~
① 応援コース(10万円)・・・寄付
② ひだりコース(100万円)
H29年6月末に30,000円、H31年6月末に20,250円を返金
③ 大空コース(1020万円)
H31&33年6月末に各50,000円、H36年6月末に102,000円を返金
※②③とも、正式な金銭消費貸借証書を結ばせて頂きます。
ご協力頂いた方には・・・
*「太陽光発電証明書(カード版)」の発行
*完成お披露目会(H26年6月)の参加、おもちつき(H27年1月)ご招待
~以降、中村家より「おひさま通信」を定期的にお届けします。お日様、風、木々に育まれた我が家について聞いてください。